

# 指導資料

# 社会 第127号



鹿児島県総合教育センター  
平成27年10月発行

対象  
校種

幼稚園 **小学校** 中学校  
高等学校 **特別支援学校**

## 社会的事象の意味について考える力を育成する 小学校社会科の授業改善

1 単位時間における社会的事象の意味を明確にすることの大切さや、「鹿児島学習定着度調査問題」を基に、児童が社会的事象の意味について考える力を育成するための授業改善例を紹介する。

### 1 「社会的事象の意味」とは

「小学校学習指導要領解説 社会編」においては、社会科の授業を通して、児童が「社会的事象の意味について考える」ことが求められている。これは、単に「社会的事象について知る」だけでなく、「社会的事象の意味について考える力」を育成する社会科授業に改善することで、「社会的な思考・判断・表現」の力を育成することを企図したものである。小学校学習指導要領の「内容」では、社会的事象の意味について、「～について考えるようにする。」と示されている。

このことについて、澤井<sup>\*1)</sup>(2013)は、「『考えて身に付ける知識』（社会的事象の意味）は、単元あるいは小単元の学習を通して、最終的に身に付けさせる知識」と述べている。つまり、小単元で最終的に身に付けさせる知識は、各単位時間の知識、

言い換えると、各単位時間の社会的事象の意味で構成されていると言える。

また、「小学校学習指導要領解説 社会編」には、以下のように、「考える内容（社会的事象の意味）」と「調べること」が書かれている。

#### 【第3学年及び第4学年の内容】

(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

- ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること
- イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特徴及び国内の他地域などのかかわり

(小学校学習指導要領解説 社会編pp. 25-28から)

さらに、各学年の能力に関する「目標」の中には、考える内容として、次のように示されている。

#### ○ 第3学年及び第4学年

(3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特徴や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

○ 第5学年

(3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

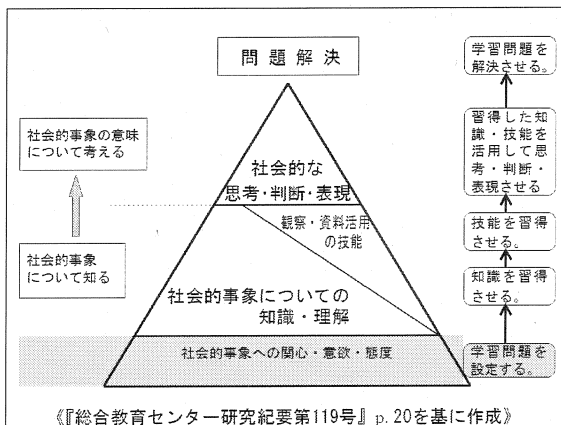
○ 第6学年

(3) 社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

(小学校学習指導要領解説 社会編p. 20, 49, 72から)

ここでは、考える内容の系統が示されている。中学年では、「意味」の中味が「特色」や「相互の関連」とあり、考える内容の視点が具体的に示されている。一方で、第6学年になると、「意味」を「広い視野から考える」とあり、複数の視点から考えることが求められていることが分かる。

当センターでは、社会科における評価の観点のイメージを、資料1のように捉えている。これに照らしてみると、社会科では問題解決に必要な知識や技能を習得させる過程で、社会的事象について知らせ、それらを活用して社会的事象の意味について思考・判断し、表現させるようにするという一連の流れをつくることが重要である。



資料1 社会科における評価の観点と社会的事象の意味(イメージ)

なお、「社会的事象の意味」は、例えば以下のように下位分類することができる。

分類項目	社会的事象の意味の例
特徴	自分たちの住む校区は、平らな土地で役所や商店街が多い。
働き	運輸の働きにより、生産した自動車や収穫した農作物、水揚げした魚介類が早く、正確に輸送できる。
役割	消防署で働く人は、少しでも早く消火をするために様々な工夫をしている。
因果関係	近代化により工業が発展し、人々の暮らしも西洋風になった。
条件	涼しい気候を生かして、長野県では、レタスなどの野菜づくりが盛んである。

## 2 諸調査の結果から

(1) 「平成26年度鹿児島学習定着度調査」の結果から

学力調査については、「基礎・基本」問題の平均通過率は、65.1%であるのに対して、「思考・表現」問題の平均通過率は52.2%で、無解答が昨年度より高い傾向にある。「鹿児島学習定着度調査結果報告書」には、「資料を調べたり、自分の考えをまとめたり、話し合ったりして学習課題の解決を図る授業を更に充実させる」ことの重要性が示されている。

また、学習状況調査における、学習活動に関する児童の意識調査によると、学習活動の中で最も多いのが、「自分の考えや資料を基に話し合う(20%)」で、次いで「先生の説明を聞く(17%)」、「課

題について調べ学習をする(16%)」となっている。問題解決的な学習や言語活動が充実している一方で、教師が知識を説明して児童に伝達する学習などが依然として多いことが分かる。

(2) 「学習指導要領実施状況調査」の結果から

「小学校学習指導要領実施状況調査結果(平成27年2月公表)」では、「社会的事象の意味」に関連して、次のような授業改善を促している。

- 1 情報を基にして社会的事象の意味を考え表現できるようにする指導の充実
  - 2 基礎的な知識や技能を確実に身に付けるようにする指導の充実
  - 3 問題解決の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする指導の充実
  - 4 よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てる指導の充実
- (小学校学習指導要領実施状況調査 教科別分析と改善点(社会)小社pp. 22-23から)

資料2 教科指導に関する認識

ここでは、問題解決的な学習の指導過程の中で、基礎的な知識や技能を確実に習得させることと併せ、習得したことを活用し、児童に社会的事象の意味を考え、表現させることが大切であることを指摘している。

例えば、「学習した用語・語句を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明できるようにする指導」や「学習したことを振り返り、様々な情報を総合して、社会的事象の意味を考え、表現できるようにする指導」が重要であると述べられている。

3 「社会的事象の意味について考える力」の育成

「社会的事象の意味」について考える力については、前述のとおり、各学年の「考える内容」と併せて示されている。

また、以下の例のように、各学年の内容においても具体的に示されている。

- ・ 国土の環境保全や自然災害の防止の重要性を国民生活と結び付けて考える力。
  - ・ 我が国の農業や水産業などの食料生産にかかわる産業、工業生産にかかわる産業、情報産業が国民生活の維持と向上に役立っていることを考える力。
- (小学校学習指導要領解説 社会編p. 50 から)

このように、社会的事象の意味について考える力については、学年や内容のかたまりで示されているものの、単元や1単位時間の授業においては、具体的に示されていないため、児童にどのような社会的事象の意味を考えさせるのかが曖昧になりがちである。そこで、以下のように、単元や単位時間における学習内容の構造化によって、学習内容を明確にすることを提案したい。

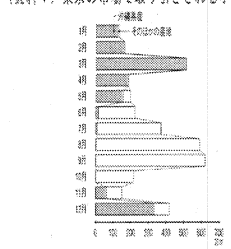
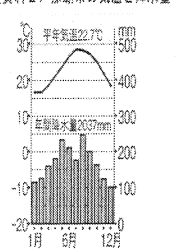
小単元で捉えさせる社会的事象の意味	1単位時間で捉えさせる社会的事象の意味	1単位時間で調べさせること
<p>「米づくりのさかんな庄内平野」を捉えさせる社会的事象の意味</p> <p>「米づくりのさかんな庄内平野」では、自然条件を生かして、生産に関わる人々が工夫や努力をして米を生産している。そして、生産された米は、運搬の働きによって消費者へ届けられる。このように、我が国では、課題を解決しながら、日本各地でその生活を営んでいる。</p>	我が国の主食である米は、自然条件を生かして、日本各地で作られている。また、米の生産地は、東北地方が多い。①	・ 主食・東北地方・気候 ・ 各地の米作りの様子
	庄内県庄内平野は、我が国において米の生産のさかんな県の一つである。また、稲Aの米を生産している。②	・ 庄内県庄内平野・稲作整備 ・ 生産額・食味ランキング
	庄内県庄内平野は、地形や気候など、米作りに合う自然条件がそろっている。③	・ 最上川・津川・日向川 ・ 日照時間・季節風・平野
	稲作農家の人たちは、季節に合わせて、田植えや水の管理等の仕事をしている。④	・ 田おこしや稲刈りなどの仕事 ・ 季節に合わせた仕事の工夫
	稲刈り機により、大型機械の田植えや水の管理ができるようになった。その結果、作業時間は減少し、生産量は増加した。⑤	・ 稲刈り機・田んぼ ・ 作業時間・大型機械
	話し合いにより、共同作業を行い、仕事を効率化している。⑥	・ ラジコンヘリコプター・農業 ・ 共同作業
	生産者や消費者が求める安心・安全な米を生産するための研究をしている。⑦	・ JAS・有機農業・品種改良 ・ 農業生産技術試験場
	生産された米は、トラックなどの運輸の働きによって、消費者へ届けられる。⑧	・ 冷凍ドライパッカー ・ トラック・運輸
米の生産量や消費量を増やすために、米を食べる習慣、米や米を使ったお菓子(米餅)を作っている。⑨	・ 生産調整・消費量・生産量 ・ 米を使ったお菓子 ・ 田んぼアート	

資料3 学習内容の構造化例(第5学年「米づくりのさかんな庄内平野」)

単元の学習内容を構造化し、資料3のように1単位時間において考えさせる「社会的事象の意味」について、「調べさせること」と併せて明確にしておくことで、何を考えさせるのかを明確にした指導ができる。

#### 4 社会的事象の意味について考える力を育成する授業づくりの例

「思考・表現」の問題においては、既有的知識や、資料活用により読み取ったことから社会的事象について知り、習得したことを活用して、社会的事象の意味を考えることが求められる。このように調査問題を解決する過程は、授業における問題解決的な学習過程と重なることから、「鹿児島学習定着度調査」の「思考・表現」に関する問題を活用して授業づくりを考えることが授業改善にもつながる。調査問題を活用した授業改善の例を、資料4に示す。

社会的 事象と の 出 合 い	調査問題	<p>沖縄県は、サトウキビの栽培で有名ですが、最近では、小ぎくをはじめとする花の栽培もさかに行われています。小ぎくの栽培がさかに行われているのはなぜですか。その理由を、資料1・2から分かることをもとにして□に書きましょう。</p> <p>(資料1) 東京の市場で取り引きされる小ぎくの数 (資料2) 那覇市の気温と降水量</p>   <p>(2006年東京都中央卸売市場統計) (暦年表)</p>
	学習問題	<p>【説明・論述】 沖縄県で、小ぎくを始めとする花の栽培や出荷が盛んに行われているのはなぜだろうか。</p>
	予想	<p>【説明・論述】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気候が暖かいからではないか。</li> <li>・ 冬も栽培できるからではないか。</li> <li>・ 都市でよく売れるからではないか。</li> </ul>

社会的 事象に ついて 知る	知識の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 沖縄県は、暖かい気候を生かして、サトウキビや小ぎくなどを栽培し、出荷している。</li> <li>○ 沖縄県の小ぎくは、東京の市場に出荷されている。</li> </ul>
	観察・資料活用	<p>【読み取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 沖縄県は、平均気温が高く、一年中温暖である。</li> <li>○ 沖縄県は、他地域の出荷量が少ない冬場に、多くの小ぎくを出荷している。</li> </ul>
社会的 事象の 意味に ついて 考える	習得した知識の活用	<p>【解釈】</p> <p>沖縄県は、1年中温暖な気候を利用して、他の地域が栽培・出荷できない冬場を中心に、小ぎくを栽培・出荷することができる。</p>
	まとめ	<p>【説明・論述】</p> <p>沖縄県では、花の栽培に適した暖かい気候を利用して、他の地域では出荷できない時期に小ぎくを栽培・出荷しているから。(この他、「生産物の輸送にかかる費用が価格に反映されること」や、「他の地域で生産できない時期に出荷するので安定した価格で取引されること」など「運輸」、「価格と費用」の視点について付加することも考えられる。)</p>

資料4 社会的事象の意味について考えさせる授業イメージ  
(第5学年 単元「あたたかい地域の人々の暮らし」)

社会科における思考力・判断力・表現力は、問題解決的な学習の中で、社会的事象の意味について考えることによって育成される。その際、前述のとおり、単元及び1単位時間において、児童に考えさせる社会的事象の意味を明らかにするために、学習内容を構造化し、どのような知識や技能を習得させ、それらを活用して、どのような解釈を行うかを想定して授業づくりを行うと効果的である。

社会的事象を知る社会科に留まることなく、社会的事象の意味について考える力を育む社会科への授業改善を期待したい。

－引用・参考文献－

- \*1) 澤井陽介著『小学校社会 授業を変える5つのフォーカス』平成25年、図書文化
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』平成20年
- 北俊夫著『社会科学力をつくる「知識の構造図」』平成23年、明治図書

(教科教育研修課)